平成3年度 和歌山県名匠

【宮大工】

みや だい く

尾上徳治

おの うえ とく はる

【現 住 所】高野町
【生　　年】昭和5年

業績及び経歴

昭和20年高等小学校を卒業後、大工見習に入る。高野山の各寺院にて営繕工事に携わり大工修業を続ける間に大阪製図専門学校で設計手法を学ぶ。

昭和32年、県名匠の宮大工、辻本喜次氏が経営する大彦組の門をたたき、7年間の再修業。

この間、火事で焼失した高野山奥の院御供所の再建工事に墨師として加わったことが、宮大工としての名声を高めることになった。

昭和39年に独立し、尾上組をおこした。昭和43年の斑鳩中宮寺本堂の五坊寂静院への移建、昭和45年の高野山龍泉院客殿新築などが棟梁としての初期の仕事である。又、この間高野山大学元学長の中川善教前官から社寺建築の心がけや仏事の詳細について指導を受けたことが氏にとってその後の大きな財産となった。

最近の主な社寺建築は、遍照光院客殿新築（昭和57年）、成福院八角摩尼宝塔改装（昭和59年）、金剛峯寺増築（昭和63年）、惠光院本堂新築（平成3年）などで高野山の主要社寺建築の多くを手がけている名棟梁である。又、茨城県水戸市の宝蔵寺不動堂新築（昭和56年）など他府県でも数多くの仕事をしている。

一級建築大工技能士（昭和37年取得）。